

インフラ施設管理 AI 協議会（仮称）

設置趣旨（案）

排水機場とは、台風・集中豪雨等が発生した際に、支川の水を本川に強制排水することにより内水被害を防ぐための施設であり、国民の安全と社会経済活動を支える重要な設備である。

近年の気候変動に伴い、豪雨が激甚化・頻発化する中では、これまで以上に適切な維持管理が必要となる。

一方、排水機場等の河川機械設備は、昭和 50 年代をピークに昭和期に整備されたものが多く、整備後 40 年を経過する施設が令和 6 年度末時点で約 4 割を占め、設備老朽化に備えた効率的・効果的な維持管理手法が求められている。

国土交通省及び土木研究所では、維持管理の効率化・高度化に向けて、河川機械設備（排水機場）にセンサーを設置し、運転時に発生する振動等のデータを収集する状態監視や AI を活用した異常検知システムの研究・開発を始めたところである。

今後、AI を活用した異常検知システムを開発し、その普及推進を加速化させるためには、ポンプメーカーや AI 開発ベンダーなどの民間企業、関係する業界団体、研究機関、行政機関及び学識者からなる分野横断的な産官学の関係者による協力が不可欠である。

以上より、設備の信頼性を確保しつつ河川機械設備（排水機場）の確実な稼働を支える AI 異常検知システムを活用した維持管理支援の実現を目的に、産官学の関係者による「インフラ施設管理 AI 協議会（仮称）」を設置し、取り組んでいくべき技術開発や制度整備等について協議するものである。